

適塾の教育



- ▶ 塾生の熱き志
自由な学問的気風
能動的な学び
- ▶ 基礎(=オランダ語)を固め
知識と視野を広げる

教育

大阪大学の教育

- ▶ 「物事の本質を見極める力」を身に付ける

大阪大学は、「物事の本質を見極める力」をもち、国際社会における複雑で困難な課題に果敢に挑み、解決へと導くグローバル・リーダーや、これまでに無いものを創造し、未来を切り拓く人の育成に全力で取り組んでいます。



物事の本質を見極め世界に羽ばたく

- ▶ 能動的な学びにより、「高度な専門性」を基盤に
それを社会で活かすための
「広い視野」と「豊かな教養」を育む

大阪大学は、各分野の専門教育により「高度な専門性」を育むことを基盤としながら、学部から大学院に至るまでの幅広い教養教育を通じて、「複眼的な視点」と「俯瞰的な視点」を養います。

学生の学びにおいては、自ら課題を設定し解決に向けて主体的に考える、能動的な学習態度を重視し、問題解決型学習、体験型学習、グループワーク、ディスカッション等の「アクティブラーニング」を積極的に展開しています。

また、世界へと視野を広げ、異文化を理解し世界の人々と対話できる「国際性」を養うため、学生に海外留学への積極的な挑戦を促すとともに、学内においても留学生と日本人学生が互いに切磋琢磨できる環境づくりに力を注いでいます。



Tekijuku

適塾門下生の特性

- ▶ 進取の気風と多様性
- ▶ 自由闊達な精神
||
探究心の赴くままに



研究

OSAKA UNIVERSITY

大阪大学の研究

- ▶ 適塾から受け継ぐ先見性と自由闊達な精神により、時代を先取る独創的な学問・研究が行われています

■ 緒方洪庵の広めた種痘とコレラ対策



大阪種痘館分苗免状 虎狼痢治準

■ 近世後期の大阪では、天文学や医学など自然科学的な学問が発展

- 麻田剛立(1734—1799)
- 懐徳堂の門人である中井履軒(1732—1817)
- 洪庵の師である中天游(1783—1835)など

■ 薬の町・道修町



適塾から紡がれる進取の気風と自由闊達な精神

■ 大阪の医療を支える



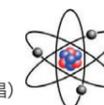
中之島時代の風景

■ 感染症研究の推進

- 微生物病研究所(1934) — ウイルス、ワクチン等の研究

■ 蛋白質研究の発展(戦後、栄養学的観点から)

- 量子力学分野を牽引
● 初代総長 長岡 半太郎(土星型原子モデルの提唱)



■ 産業を支える実学重視の気風も

- 産業科学研究所(1939)
- 「産学連携の祖」浅田 常三郎 教授



大阪大学、そして未来へ

- 細胞融合の研究
- 先端医療(再生・移植医療等)
- 免疫学

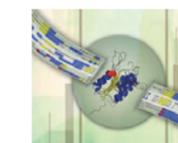
■ 創薬



- 材料科学
- 基礎工学部(1961・日本初)
- 認知脳システム学(ロボティクス)

■ 近代経済学

- 人間科学部(1972・日本初)
- 行動経済学/神経経済学
- 光量子科学



©JST ERATO Asada Project

